



中高生写真生活応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.312

TopEye

2022

春号

2021年度
TopEye
賞



「秘密」竹末 小晴 [東京都立総合芸術高等学校 2年]

Special
Interview

ニッコールフォトコンテスト
「長岡賞」受賞の高校生にインタビュー！
川原 玲音 さん

[TopEyeフォトコンテスト]受賞作品
(一部)の鑑賞や誌面のダウンロードが
できます。ぜひご覧ください！

ニコントップアイ

検索



2021年度 196回 TopEye フォトコンテスト

応募作品数
1,523点

TopEye賞



・賞状
・副賞：Nikon Z5 24-50 レンズキット

表紙に
大きく
載ってるよ!!

「秘密」竹末 小晴

東京都立総合芸術高等学校 2年

- 1・3・4枚目：ミラーレス一眼カメラ、2枚目：デジタル一眼レフカメラ
- 1・3・4枚目：15-45mm、2枚目：18-135mm
- オート、Aオート (f/7.1)、オート、オート
- 露出補正：±0、-0.7EV、±0、±0
- ISO160、400、100、200

ファッションマガジンのようなポップさで、とても目を引く作品です。色使いも心地よく、縦の画面に独特のリズムがあります。なにより組写真としての構成が秀逸でした。セルフポートレートだそうです、4枚目の写真は広がる青空と雲に未来を投影させるような美しさ。斜めの光と陰のコントラストが印象的な壁の前で2人がひそひそと話をしている2枚目の写真は、タイトルの「秘密」を暗示させます。(藤岡)



第196回
TopEye賞 受賞

〈受賞のコトバをどうぞ!!〉

東京都立総合芸術高等学校 2年

竹末 小晴さん



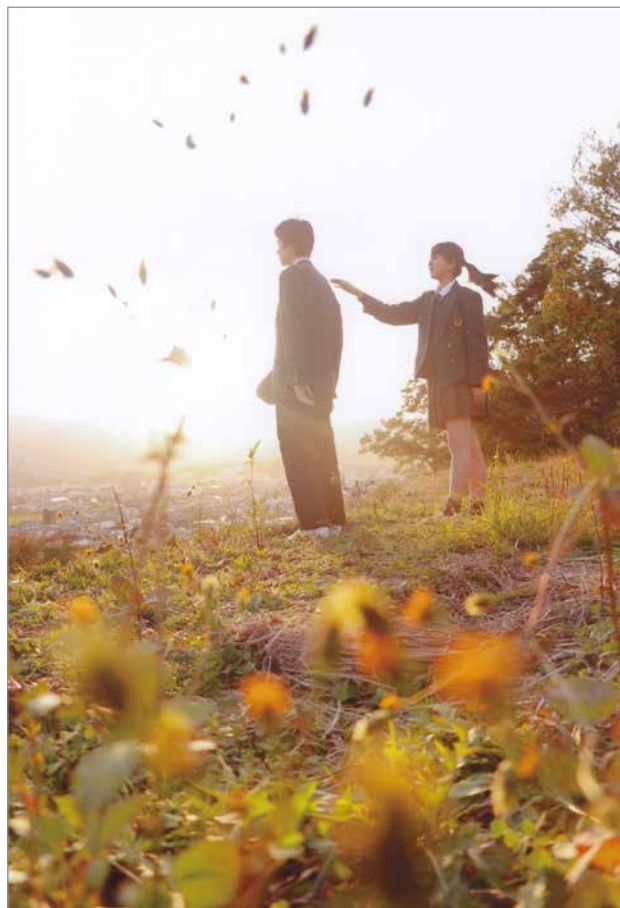
TopEye賞を頂けてとても嬉しいです。女の子2人が写っている写真以外はセルフポートレートで、画角を決め、セルフタイマーをセットし何度か走り撮影を重ねました。通りすがりの子どもから馬鹿にされたり、苦笑いで見て見ぬ振りをされたり…今回、私自身を被写体にする事で、カメラを通して「自分」と向き合うことが出来たと思います。これからも写真を撮り続けていきます。本当にありがとうございました!

「あと1センチ」 加藤 麗

宮城県白石工業高等学校 3年

- デジタル一眼レフカメラ
- 18-135mm
- Aオート (f/3.5)
- 露出補正：+1.7EV
- ISO100

もう少しで届きそうなのあるいは届きそうで届かない? そんな高校生の淡い時間を上手に演出しています。ロケーションも抜群で、夕陽に輝きながら2人の間に爽やかで切ない風が吹いている。髪が風になびいて落ち葉が舞っている、そんな動きがあるのがいい。オレンジ色の空気感、はドラマのワンシーンのようです。(藤岡)



入選

・賞状
・副賞：Nikon Zシリーズ用
プレミアムショルダーバッグ

「明日へ」植野 さくら

和歌山県立神島高等学校 2年

- デジタル一眼レフカメラ
- 18-55mm
- Aオート (f/3.5、f/7.1、f/3.5、f/3.5)
- 露出補正：-0.3EV、-0.3EV、-0.3EV、-0.3EV
- ISO100、100、100、100

ドラマチックな光が印象的でした。逆光を活かしてアンダー目に仕上げることで、シルエットを印象的に描くことができています。ただ、被写体との距離感が一定だったので、やや単調になってしまいました。構図にバリエーションをつけられれば、もっと良かったのではないのでしょうか。(熊切)

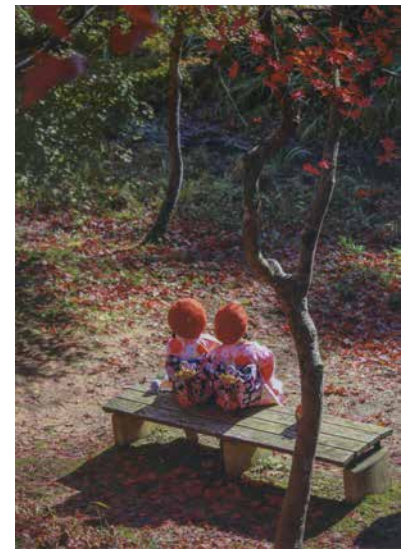


「涙のわけ」 小林 沙樹

沖縄県立沖縄工業高等学校 1年

- デジタル一眼レフカメラ
- 18-55mm
- オート
- ISO800

子供のなんとも言えない表情だけで勝負したところが良かったのではないのでしょうか。優しい光が涙の輪郭を描いています。暗めに仕上げた露出で、暮れゆく夕方の寂しさや不安さを表現できています。シンプルな要素で深いストーリーを感じさせる作品になりました。(熊切)



「小春日和」島宗 唯菜

新潟県立長岡農業高等学校 2年

- デジタル一眼レフカメラ
- 18-55mm
- Aオート (f/5.6)
- ISO100

赤い木々の色味が効いており、双子の可愛い衣装の色とうまくシンクロしています。少し引いた構図により「二人だけの楽しい世界」という空気感をうまく演出することができました。シンプルですが可愛い作品です。(熊切)

「light fisherman」 桑原 浩彰

香川県立坂出商業高等学校 2年

- デジタル一眼レフカメラ
- 18-135mm
- Sオート (1/4秒)
- ISO300

まるでイリュージョンの世界のような表現です。スローシャッターで光跡を残して魚に見立てたようですが、その精度がなかなか高く、目の部分を作るなど手が込んでいます。仮面の表情も作品とマッチしており、完成像をしっかりとイメージして準備できた成果と言って良いでしょう。(熊切)



「開演」林 美香

福井県立丹生高等学校 2年

- ミラーレス一眼カメラ
- 14-42mm
- M (1/320秒・f/4.2、1/200秒・f/5.1、1/80秒・f/9)
- ISO6400、6400、6400

写し出された楽譜は複雑なデザインを生み、にぎやかな演奏が聞こえてきそうな感覚に陥りました。被写体の表情も真面目だったり楽しげだったりバラエティに富んでおり、少ない情報量ですが楽団の演奏を見るかのようなスケールの大きさを感じさせる表現ができています。(熊切)

準 TopEye賞



・賞状
・副賞：Nikon Z50 16-50VR
レンズキット

佳作

・賞状
・副賞：ND オリジナルリバーシブル
ポーチプロ (ネイビー)



「染められない輝き」 中陣 凜子

富山県立富山中部高等学校 1年
●デジタル一眼レフカメラ ●18-55mm
●Aオート (f/5.6, f/6.3, f/5.6)
●露出補正：±0, +1, ±0
●ISO6400, 6400, 6400



「まぶしい彼方」石井 晴人

神奈川県立瀬谷高等学校 2年
●D5600 ●AF-P DX18-55mm
●Pオート ●ISOオート



「キミに落ちたのは…」 佐藤 里奈

宮城県迫桜高等学校 2年
●ミラーレス一眼カメラ ●70mm
●Aオート (f/5.6) ●ISO1000



「他山の石」越本 悠里

和歌山県立神島高等学校 2年
●D3400 ●AF-P DX18-55mm
●Aオート (f/13, f/16, f/8, f/11)
●露出補正：-1EV, -1EV, -1EV, -1EV
●ISO100, 100, 100, 100



「それぞれの営み」保田 花音

和歌山信愛中学校 1年
●デジタル一眼レフカメラ ●28-80mm
●Aオート (f/4.5) ●ISO1600



「脆くて、夢い」小野寺 あゆみ

宮城県迫桜高等学校 2年

●デジタル一眼レフカメラ ●50mm
●Aオート (f/2.8, 2.5, 2.5) ●露出補正：-1.7EV, -1.7EV, -1.7EV
●ISO100, 100, 100



「鼓舞」岩井 大和

群馬県立富岡実業高等学校 2年
●デジタル一眼レフカメラ ●70-200mm
●Sオート (1/1000秒, 1/800秒, 1/800秒, 1/800秒)
●ISO6400, 6400, 6400, 6400



「未知数」平良 有理佳

沖縄県立沖縄工業高等学校 2年

●デジタル一眼レフカメラ ●18-55mm
●M (1/250秒・f/4.5) ●ISO400



「感情の動き」天野 史寛

宮城県農業高等学校 1年
●D3400 ●1・3・4枚目：AF-S DX18-135mm、
2枚目：AF-P DX70-300mm
●M (1/800秒・f/6.3, 1/800秒・f/6.3, 1/125秒・f/6.3、
1/125秒・f/6.3)
●ISO200, 400, 400, 400



「雨の日の散歩」 大澤 萌恵香

関市立関商工高等学校 (岐阜県) 1年
●ミラーレス一眼カメラ ●18-55mm
●Aオート (f/6.4) ●ISO320

撮った回数、かけた時間の分だけ写真は強くなる

年1回、年度末の開催なので、応募作には皆さんが1年間どれだけ練習し、時間をかけたかが顕著に表れます。スポーツは試合すればするほど強くなると言われますが、写真も撮れば撮るほど、そして人に見せれば見せれば経験値が上がり、強度が増します。惜しくも選に漏れた人は、ぜひ入賞者の写真や他のコンテストの作品をたくさん見てください。入賞者の作品は、「写真は写る」という喜びを重ねた先にある「創作」の楽しみを発見した結果だと思います。フレッシュな気持ちを忘れず、写真を自分の好きなものを探すツールとしてください。

審査員 藤岡 雅也

広島県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。主な作品に、「さよならを教えて」「私は眠らない」国内外での個展など多数。2017年に出版した写真集「川はゆく」で伊奈信男賞、林忠彦賞、木村伊兵衛写真賞受賞。



自然体の表情をとらえた「記憶の記録」

今回も個性豊かでたくさんの力作に巡り会い、本当に楽しい審査となりました。作品のスタイルは例年以上にバラエティに富んでいた印象ですが、多くに共通して感じたのは自然体の表情です。写真は作り込む面白さもありますが、やはりその世代、時代の人々の生き生きとした自然な姿は、その時にしか写せない貴重な「記憶の記録」になります。そこには撮影者の、高校生としての若くしのびのびとした目線や思いも、同時に刻まれているのを感じることができるのです。もちろん結果に順位は付きませんが、どれも同等に印象に残る素晴らしい作品だったと思います。

審査員 熊切 大輔

東京都生まれ。東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部に入社。その後フリーランスの写真家として独立。広告や雑誌などで「人」が生み出す瞬間・空間・物を対象に撮影する。公益社団法人日本写真家協会理事。

準佳作

・賞状



「時間」羽根 千絵 富山県立富山中部高等学校 2年



「ネバーランド」岡田 莉花 関市立関商工高等学校 (岐阜県) 1年



「本からトランプがあ?!」飯塚 空七 群馬県立富岡実業高等学校 1年



「はじめてのおつかい」田中 桃愛 八代白百合学園高等学校 (熊本県) 1年



「女子高生のルーティーン」徳田 若菜 八代白百合学園高等学校 (熊本県) 1年



「先の見えない世界」日吉 勇喜 富山県立富山中部高等学校 2年



「青春の1ページ」玉村 心優 福井県立丹生高等学校 2年



「迷妄」近藤 快 愛知県立西尾高等学校 2年



「望郷」手銭 洸太 出雲北陵中学・高等学校 (島根県) 高校3年



「人類の進化」山田 朔也 関市立関商工高等学校 (岐阜県) 1年



「覚醒」遠山 珠優 神奈川県立瀬谷高等学校 2年



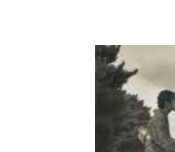
「本当の僕」浅野 鷲帆 愛知県立小牧南高等学校 1年



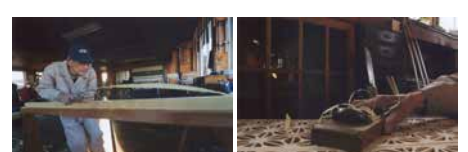
「受けとってください」永尾 珠莉 聖和女子学院高等学校 (長崎県) 2年



「働く手」小川 亜美 新潟県立長岡農業高等学校 1年



「彼と彼女のディスタンス」山田 乃愛 龍谷大学付属平安高等学校 (京都府) 2年



「職人気質」樋口 沙梨 宮城県農業高等学校 2年



「but child」横矢 結奏 和歌山県立神島高等学校 3年



「さとのあき」加藤 春樹 加藤学園暁秀高等学校 (静岡県) 1年



「もう終わんねーよ」前川 原拓人 宮城県白石工業高等学校 3年



「記憶」工藤 花奈 宮城県迫桜高等学校 2年



「もう終わんねーよ」前川 原拓人 宮城県白石工業高等学校 3年



「記憶」工藤 花奈 宮城県迫桜高等学校 2年



写真展会場の受賞作「Spring Song」の前で。

「人と自然との巡り 合わせが力をくれた」

第69回ニッコールフォトコンテスト
長岡賞受賞

川原 玲音 さん

秋田県立湯沢翔北高等学校2年
小5の時YouTuberに憧れて動画撮影を始め、一眼レフを入手したことから写真の楽しさに目覚め、中2で撮影活動開始。高校では写真部と吹奏楽部に所属。



吹奏楽部ではトロンボーンを担当。



学校近くの「中央公園(湯沢城址)」は写真部お気に入りの撮影スポット。

昨年のニッコールフォトコンテストは、最高賞「長岡賞」を高校生が勝ち取るという史上初の快挙に沸きました。その受賞者の川原さんが1月5日、入賞作品展開催中のニコプラザ新宿をご訪問。改めて受賞の感動や写真への想いを聞きました！

プリントされた自作を見て改めて感慨

高校で写真部に入ったのは、一人遊びからのステップアップを目指し、コンテストにも挑戦したいと思ったからです。でもこの夏までは県の美術展に出したくらいで、ニッコールフォトコンテストのことも知りませんでした。顧問の先生に勧められて応募し、「日本一になったよ！」と言われた時は「ん？」と状況がつかめず、説明してもらってやっと喜びを実感。家族には応募のことを言っていなかったもので、今度は僕がゼロから説明しました(笑)。

今回、展示された作品をじっくり観た感慨は大きいです。ふだん撮影した写真を紙にプリントすることは余りなく、仕上げまでモニター画面で見えています。これだと動画の一時停止と同じような感覚ですが、紙で見るとやはり微妙な色合いが異なりますし、この一枚のためにつくり込んだ「作品」という感じがします。大きなサイズで多くの方々に観てもらえたのも、今後の意欲につながります。

デジタル一眼レフの「ちょうどいいもどかしさ」

受賞作品は、奇跡に近い一枚だと思います。その日は桜を中心に撮るつもりで、仲間を通して知り合った地元の写真家の方と一緒に近く

の河川敷へ行きました。その方がたまたまモデルの方を連れてきたことや、天気待ちの間に、当初の想定と全く違う面白い構図を見つけたこと。そして、辛抱強く待った末に素晴らしい自然光が射してくれたこと。人と自然との巡り合わせが、写真に力をくれたと思っています。

カメラはミラーレスから使い始めました。ミラーレスだとビューファインダーに映ったままの写真になりますが、一眼レフは、思った結果に向けてワンステップの工夫が必要。そこに面白さを感じています。フィルムカメラも醍醐味がありそうですが、現像や焼き付けの時間がかかるので…。デジタル一眼レフの「ちょうどいいもどかしさ」が気に入っています。

様々な感情を動かす写真を撮っていきたい

受賞を機に、将来について改めて考え、写真学科のある大学への進学も考えるようになりました。



綿密な撮影プランをベースに、独自の世界観漂う写真を追求。

写真撮影では、少し違和感が混じった世界の表現にこだわりがあります。高校生活がコロナと重なり、地元でばかり撮影していますが、見慣れた風景の中に今までにない視点を探すのは面白いです。これからは、地元の商店街の人々をテーマにシリーズ写真を制作してみたい。できれば商店街の一角に展示スペースを借りて個展を開きたいと考えています。

ゆくゆくは、人の様々な感情を動かす、何かりアクションを引き出せる写真が撮れるようになりたい。そのためにも、まずは自分の世界観をもっと追求していきます。

川原さんが栄冠を勝ち取ったニッコールフォトコンテスト、次回の作品募集は3月から。ぜひご応募ください！

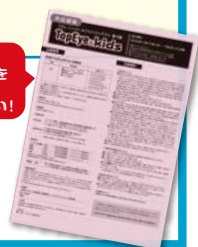
まもなく
作品募集
開始!!

第70回ニッコールフォトコンテスト
第4部 TopEye&Kids
18歳以下専用部門

応募資格 18歳以下(2022年7月末現在)
使用機材自由/テーマ自由/応募点数制限なし
※ご応募の時点で保護者の同意を得られたものと判断させていただきます。

大賞 賞品 ニッコール大賞
10万円相当
「ニコダイレクト」商品券

同封の
ご案内を
ご確認ください!



応募期間: 3月10日(木)~7月5日(火) 必着!

主催: ニッコールクラブ コンテスト概要や応募規定は、今回同封したご案内か右記のサイトで必ずご確認ください。www.nikon-image.com/activity/nikkor/ncpc/

今号の掲載作品も生で鑑賞!

2021年度 TopEye フォトコンテスト入賞作品展

今号で発表した入賞作品を展示します。
全国の仲間の写真パワーをじかに感じに来てくださいね!

ニコプラザ東京 THE GALLERY ニコプラザ大阪 THE GALLERY

3月22日(火)~4月4日(月) 4月21日(木)~4月30日(土)

営業時間(両会場とも)/10:30~18:30(日曜休館 最終日は15:00まで)



イベントレポート

第28回 関東地区高等学校 写真展神奈川大会

2/3~6 (好評のうち終了しました)

会場: 横浜市民ギャラリー

関東7都県と山梨県からそれぞれ18~20点の作品が集結し、20点が優秀賞として表彰。もちろんTopEyeフォトコン連校の作品も多数展示されました。皆さんも、地元の写真展に足を向けてみては?

主催: 関東地区高等学校文化連盟 ほか 後援: 神奈川県高等学校文化連盟



「TopEye」へのお問い合わせはこちらまで。

ニコトップアイ編集部 (株式会社 ニコン イメージング ジャパン)

E-mail: topeye@nikon.com
TEL: 03-6718-3020

次号は 6月15日
発行予定です!